

有識者

小出 宗昭氏(富士市産業支援センターf-Bizセンター長)

インタビュー概要

行政・地域金融機関による支援の課題

○公的支援機関の最大の問題は、結果(成果)を問われないこと。結果にかかわらず報酬が入るため、経営者にいかに儲けさせる仕組みをつくるかまで踏み込まず、事業計画書の作成など形式的なレベルで終わっている。ビジネス経験が豊富なスタッフも少なく、企業に対する本質的な支援(売上・儲けを増やす仕組みづくり)が出来ていない。

○地域金融機関も、事業性評価がシート作りで終わってしまっていて、踏み込んだ支援が出来ていない。

f-Bizにおける中小企業支援

○個々の企業の強みを見出し、知恵とアイデアによりその強みを活かした新商品、新サービスの開発、さらには販売促進の具体策までを、自分ごととして支援している。

○中小企業に、いかに資金負担をかけないで儲ける仕組みをつくるかということを追求している。大きな投資が失敗した場合、中小企業のダメージは企業存続に関わり、そうしたリスクを中小企業に負わせることはできない。

○スタッフの評価は徹底した成果主義で、結果が出なければ1年でも辞めてもらうシビアなもの。しかし本質的な中小企業支援による地域活性化をしたいという志の高い優秀な人材が集まっており、応募数もかなり多いため、スタッフの質の向上につながっている。

創業支援について

○創業させるのは簡単であり、創業数を支援機関の実績として掲げることに意味はない。

○創業後の支援の方が重要で、経営支援と一体で考える必要がある。

○日本で創業志向が高まらないのは、地域の問題より社会の価値観の問題。親が子どもに大企業への就職を望むような価値観に社会全体が覆われており、それを変えない限り創業の活性化を図ることは難しい。